

感染制御部

1. スタッフ



- 部長 なかた ひろとも 中田 浩智 (感染症
専門医・ICD、准教授)
- 副部長 おかもと しんいちろう 岡本 真一郎 (感染症
専門医・ICD、特任講
師)
- 副部長 ふじもと ようこ 藤本 陽子 (看護師長
・感染管理認定看護師)

- ひぐち ゆうすけ 樋口 悠介 (助教)
- えんどう しんや 遠藤 慎也 (助教)
- にしむら なお 西村 直 (寄付講座教員)
- てづか みな 手塚 美奈 (感染管理認定看護師)
- よしだ まゆみ 吉田 真由美 (感染管理認定看護師)
- おだ かずたか 尾田 一貴 (感染制御専門薬剤師)
- こんどう しょうじ 近藤 昭志 (抗菌化学療法認定薬剤師)
- やまもと けいいち 山本 景一 (感染制御認定臨床微生物検査技師)
- はやし ひでゆき 林 秀幸 (感染制御認定臨床微生物検査技師)
- かわごえ なおき 川越 尚樹 (感染対策担当事務)
- しら の ふみこ 白野 文子 (感染対策担当事務)

2. 部の特徴

2016年から感染制御部に組織改編され、専門知識を有した多職種によるインфекションコントロールチーム (ICT) として院内の感染制御に関する様々な業務を行っている。ICT の最大の目標は様々な感染症から患者・家族・職員を守ることであり、そのために耐性菌発生時の対応・環境ラウンド・サーベイランス・職員の教育といった種々の活動を行っている。2018年からは、抗菌薬適正使用を支援する活動 Antimicrobial Stewardship (AS) を開始し、同年7月からは抗菌薬適正使用支援チーム (AST) を設置し、血液培養陽性症例や難治例のモニタリング、および ICT コンサルトを通じて感染症診療の適正化を推進している。2019年からはじまった新型コロナウイルス感染症の世界的な流行は、変異をくりかえしながら継続している。2023年5月には感染症法上、2類相当から5類へ移行したが未だに収束の見込みがないため、最新の知見をもとに感染対策を講じ院内への感染拡大を防ぐとともに新型コロナウイルス感染者の診療にも従事している。

3. 業務内容と実績

下記の10項目が主業務であり、2023年度の実施内容について簡単にまとめた。

(1) 医療関連感染対策に係る防止対策の基本方針に関すること。

院内 LAN サイボウズの感染制御部内に「新型コロナウイルス感染症対応マニュアル」など院内での取り決めを作成し、随時更新している。

(2) 医療関連感染対策の教育の立案と実践に関すること。

全職員を対象とした院内感染対策研修会を年2回開催している。新型コロナウイルス感染症の流行は継続しているため、全職員を対象とする院内研修開催は中止し、eラーニングによる受講とした。

1) 2023年8月 (医療系)

「昔の病気とっていませんか？ まだまだ重要な「結核」の感染対策」

(岡本発表、eラーニング 1,822 人受講)

第1回 AST 研修会

「AMR 対策アクションプランの改訂について 2016-2020 → 2023-2027 へ」

(尾田発表、eラーニング 1,822 人受講)

2) 2023年8月 (事務系)

「大人もかかるウイルス感染症
～麻疹・水痘・風疹・流行性耳下腺炎～」

(藤本発表、eラーニング 465 人受講)

3) 2023年12月 (医療系)

「日常から感染対策の意識を高めよう～アウトブレイク・クラスター防止～」

(吉田発表、eラーニング 1,822 人受講)

第2回 AST 研修会

「抗菌薬供給制限に関する現状と対応策」

(尾田発表、eラーニング 1,822 人受講)

4) 2023年12月 (事務系)

「With コロナ？ After コロナ？ 今知っておきたい新型コロナウイルス感染症」

(藤本発表、eラーニング 465 人受講)

(3) インфекションコントロールチーム (ICT) の業務に関すること。

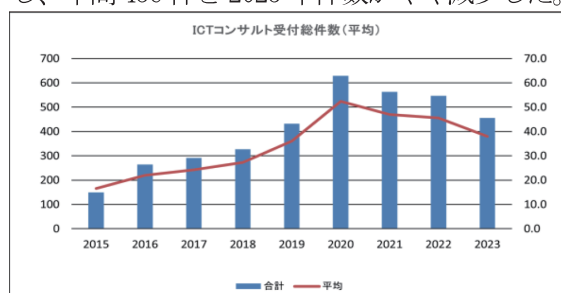
毎週木曜日に ICT 会議、毎月1回の定例感染リンクスタッフ会議・感染リンクナース会議の開催、病棟ラウンド、各種サーベイランス、感染リンクナースの育成などを行っている。院内ラウンドは毎週定期的実施し、病棟等水回りの清掃、手指衛生環境、注射作成環境、感染性廃棄物、感染情報の周知など、観察ポイントを決めて評価し、現場にフィードバックした。外来・中央診療部門のラウンドも行った。感染リンクナース育成研修は3密を避けて感染対策を行いながら実施した。

(4) 医療関連感染防止に係る実施状況調査及び見直しに関すること。

感染対策の実施状況の調査は、各種サーベイランスによって院内のベースラインの状況を把握する調査と、特定の感染症が増加した場合に行う臨時の調査に分けられる。サーベイランスに関しては、感染リンクナースを中心に手指衛生の実施状況調査やターゲットサーベイランス (SSI、CLABSI、ICU) を実施している。また 2024 年 1 月より全入院患者サーベイランス (SSI、PVC-BSI、CLABSI、UTI、VAP) も開始した。国内でインフルエンザと新型コロナウイルス感染症の同時流行も起こり、職員のインフルエンザ発症は季節を問わずあり 152 人と 2018 年の大流行 (200 人) 後、最多となった。新型コロナウイルス感染症は 5 月から 5 類感染症に移行し、クラスターの基準が 10 人以上 (それまでは 5 人) となったが 5 件の院内クラスターが発生し、1 つの病棟で 19 人発生したケースもあった。

(5) 医療関連感染対策や感染症治療へのコンサルテーションに関すること。

感染対策の問い合わせは感染管理認定看護師が対応している。感染症治療は医師や薬剤師が対応し、年間 456 件と 2023 年件数がやや減少した。



(6) 抗菌薬適正使用推進プログラム (ASP) の構築と運用に関すること。

2018 年 7 月から AS チーム (AST) を設置し、感染制御部の医師や AST 専従薬剤師が中心となり活動している。

(7) 地域他施設との医療関連感染対策に関すること。

感染対策向上加算に基づく加算 1 施設どうしの相互チェックを実施している。2023 年度は、国保水俣市立総合医療センターを 4 職種 (医師、看護師、臨床検査技師、薬剤師) で訪問し、書面調査及び院内ラウンドを行い、その結果をフィードバックした。一方、当院は人吉医療センターからの訪問を受け、改善すべき点を指摘いただいた。また加算 2 取得の菊池郡市医師会立病院と加算 3 取得の九州記念病院の 2 施設と連携を継続して行っている。年 4 回のミーティング開催が施設基準として求められており、2023 年度は新型コロナウイルス

感染流行中のオンラインから、対面でのカンファレンス実施に戻った。熊本県・市医師会、熊本市保健所など外部からの参加もあった。その内 1 回は新型コロナウイルス感染症の訓練として、連携 2 施設の他外来感染対策向上加算を取得している施設にも参加いただき、対面で個人防護具の着脱指導を行った。また、サイトビジットによる支援も、連携 2 施設にそれぞれ 2 回の訪問を実施した。

(8) 職業感染対策に関すること。

職員の抗体価検査やワクチン接種を実施している。また針刺し等による血液・体液曝露時の対応も行っている。2023 年度の実績は下記の通りである。

- ・新型コロナウイルス感染症ワクチン春接種 1,201 人 秋接種 742 人 ※外部委託業者含
- ・インフルエンザワクチン接種 2,518 人 (実施率 80.1%) ※外部委託業者含
- ・B 型肝炎、流行性 4 種ウイルス抗体価検査 (対象者のみ) 562 人 (実施率 75%)
- ・流行性 4 種ウイルスワクチン接種 (対象者のみ) 301 人 (実施率 71.8%)
- ・B 型肝炎ワクチン接種者 (対象者のみ) 84 人 (実施率 64.6%)

(9) 抗菌薬適正使用支援チームの業務に関すること。

広域スペクトラム抗菌薬や抗 MRSA 薬を指定抗菌薬とし、届出あるいは許可制としている。指定抗菌薬は、使用状況の把握、治療経過のモニタリングを実施しており、昨年度は週平均 30.3 人で、前年度 (28.9 人) よりも増加していた。AST 介入は 654 件 (受け入れ件数 457 件、69.9%) であり、前年度 AST 介入 (714 件) よりも減少していた。血液培養検査件数は 6,558 件、陽性件数 750 件、陽性率は 11.4%となっている。九州内の国公立大学附属病院と比較すると、検体数、1,000 患者あたりの件数ともにまだ少ない。また、指定抗菌薬投与 1,505 件に対し、投与前の培養検査未実施が 167 件 (11.1%) と、前年度 (17.2%) と比較してやや改善していた。血液培養検査検体は毎年増加傾向にあるが、抗菌薬投与前の血液培養検査 2 セットを含め、感染臓器を意識した培養検査を実施し原因菌の推定を行う事ができるように啓発が必要だと感じている。

(10) その他の医療関連感染対策に関し必要な事項。

その他にも、耐性菌サーベイランス、抗菌薬使用サーベイランスなどを実施し、その動向を経年的に観察し、実際の対策に活用している。